

## 文部科学省の「科学技術の振興に関する意見募集」に対する提出意見内容

平成16年9月  
情報科学技術協会

以下 6点の意見を提出した。

### 意見1 総論としてのコメント-1 基本的理念

「基本理念」、「重要政策」、「科学技術基本計画を実行するに当たっての、総合科学技術会議の使命」のいずれに関しても、記述されていることは重要であり妥当である。しかし現在社会が求めているのは、ここで取り上げられていることをどのように具体化するかの行動指針であろう。本計画に示されているような抽象的なあるべき論を展開するだけでは、「基本理念」で謳われている「世界に貢献できる国」や「国際競争力があり、持続的発展ができる国」となることは期待できない。わが国の発展過程の中で科学技術をどう捉えるかがきわめて重要であることを考えれば、この基本計画は総花的であり具体性が欠如していると言わざるを得ない。たとえば、「科学技術と社会の新しい関係の構築」の項で「科学技術と社会との双方向のコミュニケーションを図るための条件を整備」とあるが、その具体的な施策例を示す必要がある。

### 意見2 総論としてのコメント-2 “グローバル化”と“国際化”

“グローバル化”と言う視点と“国際化”と言う視点に一貫性がないために、我が国の科学技術発展の目的は、“世界人類のための発展・繁栄・安全・平和を望むものであり、その成果を日本と言う国から発信していくことである。”と言うことなのか、“世界の科学技術の水準に追いつき、追いついて国際競争力に勝ち、それが日本企業の発展と共に日本国威の発揚になる。そのためには国際化も不可欠である。”と言いたいのか明確でない。「基本計画」全体の構成からして、一般的に理解をすれば、“日本の科学技術の発展は、日本人、日本企業、日本国のためであるが、その成果はビジネスを通じて、研究発表を通じて、国際貢献のできることを願っている。”と理解できる。この視点は、実際には国際競争力にも勝てないし、国際貢献もままならない。

### 意見3 個別的なコメント-1 人材育成・養成

基本計画では、人材育成・養成に係わる教育が主として大学と大学院レベルで取り上げられているが、科学技術関係者の裾野を広げるためには小中高での理数教育の見直しが不可欠である。最近「太陽が地球の周りをまわる」と考えている小学生が多いことが話題となったが、義務教育レベルでの基本的な理数教育を十二分に行うことが、科学技術関係人材の養成において不可欠である。また、「社会とのチャネルやコミュニケーションの構築」や「種々の倫理」に関する素養を高めるためには、高等教育機関において哲学と係わる教育にもっと力を入れる必要がある（フランスではこうした側面が重視されているという）。

### 意見4 個別的なコメント-2 科学技術情報の流通システムの整備

研究開発システムが効果的・効率的に機能して優れた成果を生み出すためには、科学技術情報の流通システムの整備が不可欠であるが、この基本計画ではこれに関する記述が十分なされていない。その顕著な例がデジタル情報とアナログ情報を有機的に提供する使命を担う図書館やその他の情報提供機関の役割に関する記述がほとんどないことである。また、国内および国外を問わず情報発信の体制を考える場合今後はますます重要になるのが機関リポジトリであるが、その構築・運用・整備のあり方に関する記述がないので、追加すべきである。

### 意見5 個別的なコメント-3 産業技術力の強化と産学官連携の仕組みの改革

「1. 研究開発システムの改革」の「(1) 優れた成果を生み出す研究開発システムの構築」に中の、「競争的な研究開発環境の整備」と「任期制の広範な普及等による人材の流動性の向上」は、“投資効率のある研究

成果”及び“市場メカニズムが働く環境の形成”を挙げている。これらは結果として、短期に成果が上がり“実利的である”、或いは“投資効率がよい”ことを要求している。即ち、我が国での研究・開発は“近視眼的で、実利的、短期間に成果が出る。”ものに限られてしまう。「評価システムの改革」の中では比較的広範な視点での評価を標榜しているが、その評価方法が具体性を欠いている。評価以前に研究開発そのものに対する活動を制限していることになる。結果は、研究開発を行なえるのは、“現在、大企業、大規模な研究機関。或いは、現在、特殊な技能を持った中小企業・中小研究所。”に限られてしまう。新たな研究成果の多くは、自由な発想に基づくものに多くある事に注目すべきである。

#### **意見6 個別的なコメント-4 発表の場**

日本が世界で先端の科学技術の分野も多くあるが、それらの発表の場となっているのは、海外の著名な出版社・雑誌社であり、国際的な評価を得るためには、世界的に名前の通った雑誌に論文を掲載することが常態化してきている。そして、それらに掲載されると言うことは、グローバルな基準の中での評価を得たと言う理由で、今度は日本でも評価されると言う関係になっている。日本語での科学技術の専門雑誌は、読者の獲得ができず廃刊に追い込まれてしまったものも多くある。日本の科学技術の振興を図るためには、グローバルな視点、あるいは日本独自の視点での、科学技術の研究・調査の発表の場を設けること、日本での科学技術に対する評価基準を明示すること、この基準に従い海外からの発表を積極的に受け入れること。さらに、若い科学技術者の裾野を広げるために、易しい表現ではあるが質の高い入門者向けの教育・発表の場を設けること。これらの内容を「第3期 科学技術基本計画」に盛り込むことを要請する。

\*\*\*\*\*